

【樹木・草花の部屋】

クマザサ（イネ科イネ亜科ササ属 *Sasa veitchii*）

和名；クマザサ(隈笹) 別名； 英名；

イネ目 常緑多年草

原産地； 日本

花言葉；

花の色；



⇒ 写真－1 クマザサの樹形

撮影日：2012年11月11日

撮影場所：東京都昭島市 昭和の森にて

撮影者：Mさん

標準和名でクマザサと呼ばれる植物は、高さが1－2mになる大型のササで、葉は長さが20cmを越え、幅は4・5cm。葉に隈取りがあるのが名前の由来。この隈取りは、若葉には無く、葉が越冬するときに縁が枯れて隈取りになります。

写真－2 クマザサの葉 ⇒

撮影日：2012年11月11日

撮影場所：東京都昭島市

昭和の森にて

撮影者：Mさん



非常に変異が多く、原名亜種は京都に産するものだそうです。多くの変種が北日本の日本海側を中心に分布。変種としてオオザサ (*Sasa veitchii* var. *grandifolia*) やチュウゴクザサ (*Sasa veitchii* var. *hirsuta*) があり、チュウゴクザサはクマザサや俗称としてのクマザサのような整った隈取りにはならないそうです。種としてはこれらがクマザサですが、それ以外にも近似の種が多く、分類は混乱している面もあるそうです。

【樹木・草花の部屋】

日本のブナ林では林床に大型のササ類が密生することが多く、これらもまとめてクマザサと言われることもあるそうです。チシマザサ(*Sasa kurilensis*)、スズタケ(*Sasamorpha borealis*)、クマイザサ(*Sasa senanensis*)、チマキザサ(*Sasa palmata*)、ミヤコザサ(*Sasa niponica*)などのクマザサと同じササ属(*Sasa*)の笹が往々にしてクマザサ扱いされるそうです。一般的に、多雪の日本海側ではチシマザサ、クマイザサ、チマキザサが、少雪の太平洋側ではスズタケや小型のミヤコザサがその位置を占めます。

<ちょっと一言>

乾燥した葉は煎じて健康茶にされたり、エキスが健康食品として市販され、高血圧、糖尿病などに効果があるとされているようですが、人に対する有効性について信頼できるデータは無いそうです。クマザサの葉を淡竹葉（たんちくよう）という生薬名でいうこともあるそうですが、淡竹葉を他植物とする場合もあるそうです。

なお、「熊笹」という表記もよく見受けられますが、ほとんどは「隈笹」の誤字だそうです。しかし、健康食品の中には、熊の絵を描いたり、熊の出るような深山の笹などと称して「熊笹」としているものもあります。

旧飛騨国（現岐阜県北部）では野麦（のむぎ）と呼ばれ、野麦峠という地名もある。凶作の年にはその実を食べて飢えをしのいだといわれています。

<ちょっと二言>

ササと竹の違いはわかりますか？

竹は全ての皮を剥がすが、ササは何年立っても皮が剥がれない所がササと竹の違いです。ササの中でも、オカメザサは皮が剥がれてしまうので竹と分類するようです。また、スズタケは逆の分類になります。